

— 目 次 —

■九州自動車道（熊本～南関）開通と今後

- ・開通の意義……………8
- ・整備される道路交通網……………9
- ・農業への影響と対応……………10
- ・商業への影響と対応……………12
- ・工業はどう変わるか……………14
- ・花ひらく城北観光……………15

杉本 泉……………11

開通に寄せて 平田 耕也……………13

木島 安史……………15

■海外レポート……………24

■美しい熊本づくり運動

今後の方向づけのために

- ・＜緑と花と彫刻の町＞宇部の実績に学ぶ……………26
- ・県政の前提として……………29
- ・運動の経緯と展望……………30

■＜この人と30分＞望郷の俳人・中村汀女……………32

■＜甘言・辛言＞岩附和良……………35

■統計でみる熊本県の体質・山崎良也……………36

■グラビアページ

- ・＜ふるさとの心＞泰勝寺……………3
- ・新しい熊本をめざして
- 伸びる九州自動車道—……………17
- ・カラー熊本……………20
- ・日中友好への一歩……………22
- ・野山を歩こう
- 21世紀のスポーツ・オリエンテーリング……………23

随想欄……………6

魚津郁夫・倉田千恵子・兼瀬哲治



茶室 「仰松軒」



影はいつの世も変わらぬ



▲銀杏葉散り敷く細川家累代の墓

泰勝寺の庭

私たちには、いつの間にか日常使うこともなく忘れ去っていく言葉がある。

「木漏れ日」という言葉などは、この泰勝寺の庭を歩いていてゆりなく思い起こす言葉のひとつであろう。

初冬の昼下り、穏やかな日のひかりがひとすじ、ふたすじの縞をなして孟宗の竹の間を抜けて地にとどく。歩いていても、照るともなく、曇るともない山道である。

思えば私たちは、いつの頃から「木漏れ日」などという言葉で日常の生活から失なってしまったのだろうか。

泰勝寺の庭の散策は、折ふしのあゆみを止めて頭上を振り仰ぐがよい。樹々の梢がかさなりあい、その奥にみえる空の狭さがかえって私たちに空のもつ親しさをあらためて覚えさせる。そして梢のなかをヒョ・ツクミなどが鳴きわたる。

それから、散歩のあゆみを移すと銀杏の樹のひととが頭上たかくから枝垂れているに出合うだろう。そして、長い歳月に耐えた枝から、いくひらかの銀杏葉が整然と並んだ墓地に散り敷く光景を眼にするだろう。

慶長五年七月、明智光秀の娘、玉子……のちの細川忠興の妻・伽羅奢（ガラシャ）は、夫の従軍のさなか石田三成の軍勢にとりかこまれ、留守をまもっていた自宅に火を放ち、自刃した。齢三十八歳であった。泰勝寺は細川家の菩提寺であり、十代斉茲以下累代の藩主の墓とともに、伽羅奢夫人の墓も並んでいる。

その炎のように激しかった過ぎゆきの生涯にかかわらずもなく銀杏葉は散り敷く。

それにしても、今や激しい生涯など望むべくもなく安定した現代の日常がむかしよりもはるかに喧騒に満ちているのは何故だろうか。それとも、泰勝寺の庭を歩くなどということは、いまの慌しい人生の中では、「木漏れ日」のようにはないものでしかないのか。

この庭はそのようなことを私たちの胸のうちに問いかけているようだ。